

# 関西医大の看護学科教員 枚方市保健所を支援

感染拡大が続く現在、枚方市保健所に関西医科大学看護学部教員1〜2名が交替で、自宅・宿泊療養者の健康観察の業務にあたっている。

健康危機管理の拠点として、保健所は災害時同様の24時間体制で稼働している。休日シフト勤務や部内・庁内応援、職員の雇用など体制強化を図っている。しかし、積極的疫学調査や相談支援を行う人員が不足する事態となった。

12月上旬、市と連携協定を結ぶ関西医科大学に相談すると、「少しでも枚方の力になれば」と教員16人から手が挙がった。当初、派遣は1月4日までの予定だったが、いまだコロナ収束の目途が立たないため、現在も継続中だ。

市保健所長は「支援のおかげで療養者への定期的な健康観察がタイムリーにでき、当職員の負担軽減にもつながっている。年末年始に1人でも休ませたかったので、現場を支えていただき大変ありがたい」と話す。